

岐阜県図書館協会

会 報

No. 36

平成20年3月

事務局

〒500-8368

岐阜市宇佐4-2-1

岐阜県図書館内

電話(058)275-5111

これからの図書館連携

岐阜県公共図書館協議会会長 長谷部 政行

岐阜県公共図書館協議会の前身である旧岐阜県図書館協会が設立されたのは、昭和27年のことです。当時は図書館法が制定されてまだ間もない頃でしたが、岐阜県立図書館（当時）の移動図書館車「ひばり号」が活動を始めるなど、全国的にも読書普及活動の機運が高まっている時でした。

こうした中、「図書館活動の振興を図り文化の進展に寄与する」ことを目的とし、各図書館間の相互協力の推進を図るため、旧岐阜県図書館協会の設立に至りました。

現在、県内の公共図書館は、33の自治体に62館（県図書館を含む）を数えるまでになりました。公共図書館は地域住民にとって身近な存在として、広く図書や情報を提供することで、その生涯学習等を支える重要な施設と位置づけられています。自治体財政の悪化、運営形態の多様化など、図書館を取り巻く社会環境はめまぐるしく変化していますが、このような状況でこそ図書館どうしが手を結び、より連携・協力してサービスを行うことが重要であると考えます。

一昨年に文部科学省から出された『これからの図書館像』では、「他の図書館や関係機関との連携・協力」の中で、館種を超えた図書館間の連携の必要性について述べています。県内でもすでにこのような連携の事例がありますが、それぞれの図書館が持つ蔵書の特色を生かし、おたがいに有効活用していくことで、図書館サービスの拡大を図ることができるものと期待されます。

本年度の図書館活動研究大会では、「連携」をテーマとし、図書館職員どうしが顔を合わせ、率直な意見交換を行うことができました。今後も、県内図書館全体のサービスを発展させるため、このような取り組みの成果を形あるものにしていきたいと考えています。



図書館活動研究大会分科会の様子

岐阜県大学図書館協議会活動報告

平成19年度の主な活動は以下のとおりです。

運営委員会	6月19日(火) 岐阜大学
総会	7月27日(金) 朝日大学
研修会(視察)	9月20日(木) 大阪府立国際児童文学館 滋賀県愛荘町立愛知川図書館

今年度の総会は、朝日大学が会場となり開催し、藤下朝日大学図書館長の議長進行により、会務報告、岐阜県図書館協会及び東海地区図書館協議会での審議内容等の報告の後、決算・予算の審議、研修会場の選定、会場等の確認を行ない、課題である公共図書館との連携協力では、岐阜大学と岐阜県図書館における相互貸借の定期搬送便実施を参考に意見交換が行われ、大学間の温度差はあるものの前向きな発言が多くあり、本協議会としての統一実施は難しいが、大学の役割でもある地域貢献・大学開放にも繋がることから各大学において検討することを確認した。なお、大垣女子短期大学と高山自動車短期大学から諸般の事情により退会の申し出があり、承認せざるを得なかったことは残念である。

研修会は、大阪府立国際児童文学館(大阪府吹田市千里万博公園内)及び愛荘町立愛知川図書館(滋賀県愛知郡愛荘町)を視察した。1970年に開催された万国博覧会跡地の一角に建設された国際児童文学館は、日本で最初の国際的な児童文学資料・情報・研究センターで、担当司書から館内隅々にわたって案内・説明を受け、通常入室が許可されない貴重書庫の図書にもふれることができた。当日も多くの園児たちが思い思いの図書に目を向けていた。愛知川図書館は、地元で伝承される「びん細工でまり」を展示するびんてまりの館を併設し、地元小学校の総合学習で作成した郷土史の冊子を蔵書として貸出や郷土の情報を収集し図書館資料とする取り組みを行っており、また、大学の調べ学習の拠点のモデルとして取り上げられるなど、地域との連携を密にした図書館で大学図書館員としても大いに参考となる視察になった。

(岐阜県大学図書館協議会事務局)

笠松町の公民館図書室の貸出等状況

当館図書室は、笠松町の「文化の殿堂」である中央公民館2階及び分室として松枝公民館2階、総合会館1階に設置され、住民の皆さんの身近な施設として利用していただいております。

今年度は、「人間味豊かなふれあいを大切にする生涯学習のまちづくり」を社会教育の方針として町民の学習ニーズや現実的な課題に応じた学習機会の提供を図り、生涯を通して、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも 学び、活動できる」という環境整備を進めながら事業を展開しております。

図書室の貸出等状況(平成18年度)は、以下のとおりです。

貸出状況

3箇所の図書室で約3万冊。その内、中央公民館図書室が約9割で、町民1人当たりの貸出は、1.3冊です。

延べ利用者数

約9千4百人。人口の42パーセントです。

蔵書数

約4万5千冊。町民1人当たり2.0冊です。

年齢別貸出

30～39歳が第1位です。

分類別

中央公民館図書室は、小説が第1位でお年寄りや男性の利用が多いです。松枝公民館図書室、総合会館図書室は、絵本が第1位で親子での貸出が特徴です。

利用者カードの発行

2,741人。町民8.2人に1枚発行となっております。

ボランティアの活動

ボランティア団体「かみふうせん」によるおはなし会を年9回開催しています。また、読み聞かせボランティア養成講座を開催し、読書活動の普及に努めています。

蔵書検索システム

インターネットで蔵書検索ができ、図書の予約もできます。

拡大読書器の設置

文字を大きくしたり、白黒を反転させたりして読書ができます。

今後も町民の皆さんに“読書の場”として、図書室を利用していただけよう一層充実し、生涯学習のまちづくりを推進してまいります。

(羽島郡笠松町笠松中央公民館)

岐阜県学校図書館協議会の研修と活動

岐阜県学校図書館協議会では、下記のように学校図書館の充実発展を図るための研究会や研修会と、児童生徒の読書の振興を図るための各種コンクールを行っている。

研究会、研修会

(1)第1回研究会及び代表者会

(5月25日 岐阜市)

活動計画、予算、研究大会の計画などの協議や連絡をすると共に、学校図書館活動推進委員 安田 武氏より「今、学校図書館に求められるもの」について講話をいただいた。県下各地区から理事や代表者が集い、子どもの読書や図書館教育の推進について共通理解を図ることができた。

(2)東海地区学校図書館研究大会参加

(8月6日、7日 名城大学)

愛知県名古屋市で行われた。岐阜県からは、小学校、中学校、高等学校合わせて10校が分科会でテーマに応じた発表を行った。全校体制で着実に研究実践を積み重ねている学校が多く、大会で高い評価を得ることができた。

(3)岐阜県学校図書館研究大会

(8月17日 飛騨市)

約200名の参加者があった。高山市出身の映画プロデューサー、益田 祐美子氏より、「娘との約束から生まれた映画製作」について講演していただいた。その後、分科会を行い、各校の実践について学び合うことができた。

(4)第2回研究会及び代表者会

(2月22日 県図書館)

研究会や各種コンクールの報告を行うと共に、本年度の岐阜地区学校図書館教育最優秀賞を受賞した、岐阜市立加納西小学校と羽島市立桑原小学校の2校に実践発表をしていただいた。児童生徒の学習や生活に生かしてこそ学校図書館である。その充実発展について考えるよい機会となった。

各種コンクール

(1)図書館だよりコンクール(高等学校のみ)

(2)読書感想文コンクール

(小学校、中学校、高等学校、在学勤労青少年)

(3)読書感想画コンクール

(小学校、中学校、高等学校)

(4)図書館利用作文コンクール(小学校、中学校)

(5)読書ゆうびんコンテスト

(小学校、中学校、高等学校、一般)

それぞれに多数の参加があり、素晴らしい作品が集まった。今後もこうした事業を通して、読書活動がますます豊かに発展することを願っている。

(岐阜県学校図書館協議会事務局)

図書館活動研究大会



図書館活動研究大会講演の様子

今大会は、互いの館種の実情や“連携”の構想を実務担当者同士が語り合うことを通して、利用者が求める図書館サービスや図書館“連携”のあり方を探るとともに、今大会が関係職員一人ひとりの“連携”についての意識が高まる機会となることを願って開催した。

大会テーマ「『連携』の広がり求めて」

講演テーマ

「利用者の 喜びふくらむ 図書館連携」

講師 笑福亭仁勇(落語家)

分科会テーマ「実務担当者が考える連携のあり方」

講演の感想

『本っていいなあ、と改めて思われる講演でした。本のよさを心から感じ、本のよさを心から知って欲しいと望み、それでこそ他人の心へ響いていくことを知りました。事務的に図書室運営をしていた自分を顧みる良い機会となりました。ありがとうございました。』

『久しぶりに上方落語をきいているような気分になり、楽しく聴けた1時間半でした。面白いだけでなく、図書館教育の根幹に関する話が随所に散りばめられており、勉強になりました。ストーリーテリングは実践してみようと思っています。』

分科会で“連携”強化のために

話題となったこと

- 1, 連携強化に関わる紛失等のリスクの問題
 - 2, 資料廃棄・再生流通に関わる連携
 - 3, 先進的な連携事例に関わる情報提供
 - 4, 小中学校教員の多忙さ
 - 5, 小中学校図書館職員(学校司書、整理員、常勤、非常勤)への情報提供のあり方
 - 6, 地区別連絡会の実施
 - 7, さらなる「人のネットワーク」づくりを
- これらの話題は、大会後、相互協力部会で検討することとし、大変有意義な大会となった。

(岐阜県図書館協会事務局)

相互協力部会の活動
～図書館の連携・協力「はじめの一步」～



各務原市立鷺沼第二小学校の取り組み

学校への出前図書館、公共図書館と大学図書館の相互協力に関する協定の締結……。近年館種の壁を越えた連携・協力が確実に進展しつつある。様々な館種が加盟する当協会では、館種を越えた連携・協力のあり方が課題となっている。

相互協力部会では、各館種がそれぞれ連携・協力について現状と課題を持ち寄り、より有益な相互協力の実現方法について協議を深めた。会議は岐阜大学(第2回 10月)各務原市立鷺沼第二小学校(第3回 12月)を会場とし、他館の現状を知り、協議の参考とすることにも心がけた。

併せて、11月に行われた図書館活動研究大会の意見交流会(テーマ:自館の連携の現状と要望等)の意見も参考とし、連携・協力のポイントを「人」、「資料」、「情報」の3点にまとめ、具体例の整理を行った。以下は具体例である。

「図書館担当者同士の交流」、「相互協力部会、図書館活動研究大会の充実」、「大学図書館と地元公共図書館の連携協議の開始」、「専門図書館からの情報発信」、「物流ネットワークの拡大」、「除籍本の活用・保存システム」、「研修情報、協議会の年間予定の共有」、「図書館運営相談先紹介」など。

連携・協力の実現にあたっては、準備や検討に時間を要するものも多い。ただし各種研修情報の共有や図書館活動研究大会の充実などすぐに取り組めるものもある。実現可能なものは平成20年度中に取り組み、準備や検討が必要なものは、引き続き協議を深めることとしたい。

他館種との連携・協力は、他館の力を自館の力としても活用できるよう、お互いの強みを生かすことが大切である。それぞれの図書館が連携・協力の「はじめの一步」を踏み出せるよう、当部会での協議を実りあるものと思いたいと思う。

(相互協力部会)

平成19年度 事業報告

- 1, 図書館活動研究大会(100人参加)
平成19年11月16日(金)岐阜県図書館
大会テーマ「“連携”の広がりを求めて」
講演テーマ
「利用者の喜びふくらむ 図書館連携」
講師 笑福亭仁勇(落語家)
分科会テーマ
「実務担当者が考える連携のあり方」
- 2, 図書館実務講習会
(1) 学校図書館職員
岐阜県学校図書館研究大会(212人参加)
平成19年8月17日(金)
飛騨市文化交流センター、同古川町総合会館
大会テーマ
「豊かな心を育み確かな学びを支える
学校図書館」
全体会「娘との約束から生まれた映画制作」
講師 益田祐美子
(映画プロデューサー)
分科会
読書指導・利用指導・管理運営・高校部会
- (2) 図書館職員研修(初任者)(91人参加)
平成19年7月11日(水)岐阜県図書館
講義「図書館へようこそ!」
～図書館の仕事を理解するために～
講師 澤谷 とし子
(東近江市立湖東図書館長)
講義「図書の分類について」
講師 総井 淳子(岐阜県図書館)
講義「図書の目録について」
講師 寺井 富之(岐阜県図書館)
- 3, 資料発行
「会報」(36号) 平成20年3月
- 4, 会議
理事会 7月6日(金)
幹事会 第1回 6月22日(金)
第2回 3月4日(火)
相互協力部会 第1回 8月30日(木)
第2回 10月25日(木)
第3回 12月20日(木)
第4回 2月14日(木)
- 5, その他
岐阜県専門図書館協議会は平成19年11月1日をもって解散し、本会を脱会。
(岐阜県図書館協会事務局)